

## [資料1] コンテナ苗について

### (1) 苗木の形状の種類

林業用種苗（林業に用いられる苗木）には、いくつかの形状がありますが、裸苗とコンテナ苗が主に用いられています。

裸苗は畑で生産され、根が露出した状態で山に持っていき植栽されるのに対し、コンテナ苗は専用の容器で生産され、出荷時は根に土がついた状態で植栽されます。

国内でのコンテナ苗の生産は2008年頃から開始され、約15年間で苗木生産量の5割をコンテナ苗が占めています。（R4年度苗木生産量は6,700万本。うちコンテナ苗は3,084万本）

	コンテナ苗	裸苗
出荷時の状態	 <p>培土のついた根鉢を有する苗</p>	 <p>根系が露出した状態の苗</p>
育苗の様子		
出荷までの期間	1～2年	3年
生産に要する労力	植替え：なし 根切り：なし 掘り取り：容易	植替え：2回 根切り：2回 掘り取り：重労働
植栽時の労力	従来より小さな穴で植栽可能かつ専用の器具があり、比較的負担少	負担大
山に植栽できる時期	根鉢があるため比較的乾燥に強く、土壌が凍結する厳冬期以外は植栽可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根が露出しており乾燥に弱い</li> <li>・春または秋期</li> </ul>